

2017年3月3日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 長谷川 弘

ベトナム国ホーチミン市都市鉄道建設事業
(ベンタイン - ミエンタイ間 (3A号線フェーズ1))
(協力準備調査 (有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年2月20日(月) 13:54～16:45
- ・場所：JICA本部 (1階 111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、鋤柄委員、虎岩委員、長谷川委員、原嶋委員
- ・議題：標題事業に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：1) スコーピング段階助言対応表
2) ドラフトファイナルレポート
3) Environmental Impact Assessment (Draft)
4) Resettlement Action Plan (Draft)
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010年4月)

全体会合 (第78回委員会)

- ・日時：2017年3月3日(金) 14:30～15:29
- ・場所：JICA本部 (1階 113連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

環境配慮

1. 騒音・振動の影響は高架区間が主とあるが、民有地の地下部を通過する区間における地表の既存建物への騒音・振動等の影響について FR に記述すること。
2. 土砂廃棄物の処分先の選定及び投棄にあたっては、人民委員会が適切な環境社会配慮を行う旨、FR に記述すること。
3. 地下で残留沈下が発生する恐れが指摘されているため、供用時（運用段階）の環境モニタリングフォームに「地盤沈下」を記載すること。
4. 供用後 2 年間は大気質・騒音・振動等をモニタリングしその結果を JICA に報告することは既に計画されているが、その後のモニタリングについても、鉄道運営&メンテナンス会社（MOMC）へ引き継ぎ自主的に実施することを FR で事業実施機関に提言すること。

社会配慮

5. 移転はしないが、利用可能な交通手段及びその費用の変更により負の影響を被る住民がいる場合は、それを緩和するためのきめ細やかな配慮をするよう先方政府に提言する旨、FR に記述すること。
6. 横断歩道やバイクの駐車場などの駅周辺インフラの整備と利便性向上のための方策について、相手国政府に提言する旨、FR に記述すること。
7. 防犯カメラと非常通報装置の設置、相談対応駅員や電話相談スタッフの教育・訓練、非常通報装置の説明などを含めた女性向け見学ツアーの実施等の対策を確実にするために、以下を FR に記述すること。
 - フォーカルポイントを定める
 - 行動計画を策定・実施する
 - ユニバーサルデザインの一環として当該分野の技術支援プログラムを実施する
8. ジェンダーに配慮した労働基準が遵守されるよう、ハラスメント研修、人権研修などを今後実施予定の技術協力にて検討すべきである旨、FR に記述すること。
9. 障害者、ジェンダー等、社会的弱者への配慮を実施するにあたり、昇降機の設置、プラットホームからの転落防止柵の設置、女性専用車の導入、優先席の設置などのユニバーサルデザインによる方策を FR で提案すること。

ステークホルダー協議・情報公開

10. ステークホルダー協議で住民からの疑問に対し明確に回答されていない事項を整理し、詳細設計以降の段階で特に検討すべき点として FR にて提言すること。

その他

11. 経済分析の「費用」には環境社会配慮コストが含まれていることを FR に明記すること。

以上